

施策評価調書(25年度実績)

政策体系	施策名	安心して子どもを産み育てられる保健・医療の充実	所管部局名	福祉保健部	施策コード	I-1-(3)
	政策名	子育ての喜びを実感できる社会づくりの推進 ～子育て満足度日本一の実現～	関係部局名	福祉保健部	長期総合計画頁	29

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	安全で安心して出産できる 体制づくりと不妊への支援	小児医療体制の整備と 医療費負担の軽減	子どもの健やかな発達と 育児不安を抱える親への支援	次代の親になるための 意識の醸成と健康教育の推進

【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する 取組No.	基準値		25年度			26年度	27年度	目標達成度(%)					
		年度	基準値	目標値a	実績b	b/a	目標値	目標値	25	50	75	100	125	
i	周産期死亡率(後期死産と早期新生児の死亡率) (出生千対)(人)	①	H15 5.4	4.0	4.5	87.5%	3.9	3.9						
ii	小児の重症患者を受け入れる二次救急医療体制 が整備された小児医療圏の割合(%)	②	H16 30	66.7	66.7	100.0%	66.7	66.7						
iii	育児支援に重点を置いた乳幼児健診を行う市町 村の割合(%)	③	H16 13.8	88.9	83.3	93.7%	94.4	100						

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i	達成 不十分	周産期死亡率については、長期的には減少傾向にあり、H24にH27目標値を達成したが、大分県の出生数は約1万人であるため、1人の死亡により死亡率が0.1ポイントと大きく変動したため。	概ね達成
ii	達成	国庫補助事業を活用した体制整備の働きかけ等により、目標値を達成した。	
iii	概ね 達成	市町村の保育士等を乳幼児健診に活用するなど、保健と福祉の連携が強化されたことにより、目標値を概ね達成した。	

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・不妊治療費助成事業により、不妊治療に伴う経済的負担を軽減し、子どもを生みたい人が生めるような環境づくりを推進した。 H24年度:668件→H25年度:723件(8.2%増)
②	(指標により評価)
③	(指標により評価)
④	・県内大学でライフデザイン講座を実施し、若い世代に早い時期から将来家庭を持つことや、親になることについての意識醸成を図った。 H25年度実施大学校数:4大学

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(25年度事業)	事業コスト(千円)	26年度の実施状況	主要な施策の成果掲載頁
①	不妊治療費助成事業	88,477	継続	44
	妊娠の悩み相談体制整備事業	5,753	継続	45
②	子ども医療費助成事業	962,999	継続	46
	小児救急医療体制整備推進事業	94,586	継続	43
③	育児不安すこやかサポート事業	1,551	終了	47
④	次代の親づくり推進事業	12,817	継続	48

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○おおいた子ども・子育て応援県民会議(H26.2.20)</p> <p>・関係機関の連携による地域の母子保健・育児支援体制の充実が必要である。</p>	<p>○第6回「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会(H25.12.19)</p> <p>・「次代の親づくり推進事業」をきっかけに少子化の原因や対策を大学生が研究している。次世代への投資、目配りが大切である。</p>
--	---

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健・育児支援体制の充実や子どもの健康づくりを推進するとともに、個々の母子の状況に応じた切れ目のない支援を継続する。 ・子育て家庭の経済的負担の軽減と子どもの早期治療の促進のため、医療費助成を継続する。 ・不妊への支援や、妊娠・出産に関する正しい知識の普及啓発を図る。 ・次代の親づくりを推進するため、ライフデザイン講座実施大学数の拡充を図るとともに、啓発冊子の高等学校家庭科授業等での活用を推進する。 ・24年度に立ち上げた周産期死亡症例検討会において26年度も引き続き、昨年調査したH24年分の34症例について分析し、報告書として取りまとめ医療機関に情報提供する。